

[illegible]

白屋の石垣観察

今も昔も、白屋を象徴する景観といえば石垣です。石垣をじっくり観察すれば、そこにどのような石があったのかをうかがい知ることができます。文字通り、白屋の暮らしの基礎となってきた石垣は、みなさまの活動のおかげで守られており、未来への風景づくりの大切な構成要素となっています。

石垣に使われている代表的な石をご紹介しますので、活動で白屋を訪れた際は、是非注目してみてください。



石灰岩

白屋を代表する「白い」石で、サンゴや貝がらなどが海底で堆積してできました。炭酸カルシウムを多く含み、純度の高いものは白くなります。コンクリートや黒板のチョークの材料になります。



白屋の石灰岩と高級和紙・宇陀紙の歴史

白屋には「白土（きご）山」と呼ばれる石灰岩の採掘場があり、切り出された石は陸送や筏などで和紙の名産地・吉野町国栖（くず）へと運ばれました。その石を砕いた「白土（はくど）」を漉き込んだ和紙は丈夫でひとときわ白く美しい高級和紙として重宝されました。宇陀の商人が流通させたので「宇陀紙」ともてはやされました。現在も文化財の修復などに欠かせないこの和紙の歴史は、白屋の存在なくしては語れません。

チャート

海中の微生物が深海に堆積し、固まった石です。微生物の殻に由来する石英が、しばしば白い筋となって現れます。色は黒や赤、白など様々で、非常に硬い性質を持つため、火打石にも使われました。



砂岩

砂つぶが、海底にたまってできた堆積岩です。風化しやすく、さわると少しざらざらしています。

泥岩

海底で泥が積み重なり、固まってできた黒っぽい岩石です。薄く層を成して剥がれやすくなったものは、特に「頁岩（けつがん）」と呼ばれます。



緑色岩

海底火山の玄武岩がプレートの沈み込みで運ばれ、熱と圧力による変成作用で姿を変えたものです。水に濡れると、その名の通り深い緑色がより一層際立ちます。

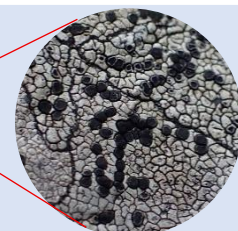


川上村の石の特徴

多くは、かつて海の底で堆積したものです。これらはプレートの沈み込みに伴い、大陸側へ押し付けられ、せり上がるようにして地表に現れました。特に石灰岩は、川上村にはたくさんありますが、近畿地方では分布が限られている貴重な資源です。

岩の模様？

石垣の模様の正体は、菌類と藻類が共生する「地衣（ちい）類」です。黒い点は胞子を出す「子実体」で、岩に張り付いたまま全体として光合成をして生きています。種類によって色や形がちがいます。空気がきれいな所ほど種類が多く見られます。ただの汚れに見える模様も、実は長い年月をかけて育った命の跡なのです。



地衣類ヘリトリゴケの一種

「白屋の生き物かわら版」は森と水の源流館が、旧白屋地区の生き物の観察記録にあわせて、いろいろな活動の情報を発行しています（不定期）。過去の記録は→<https://genryuu.or.jp/main/chosa/shizenchosa/>